

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷養護学校の取り組みを多くの方に知っていただくためのお便りです。

## ～まっちゃんの今月のつぶやき～

### 「伝えたい気持ち」を育てる & 「知りたい気持ち」に気づく

ことばを育てる中で、教えても相手がキャッチしてくれないことがあります。

#### 学んだ「ことば」がその子にとって必要がなければスルーされてしまう

ということなのかなと思います。

さて、日常用いている「ことば」が使えない状況になった時

(たとえば、ことば「が通じない外国に出かけた時など)、

まず「何を知りたい」「何を伝えたい」と思うでしょうか？

「トイレの場所を知りたい」のに、「あいさつ」のことばを教えてくれたり、

名前の書き方を教えてくれたりしたら、

「今、それじゃないんですけど!」と怒りたくなるかもしれません。

#### 「使わないことば」「使えないことば」は忘れてしまうそうです。

(6年近く英語を習ったのに満足に話せない…とかありません? 笑)

授業を組み立てる時、教える側の思いがつい優先してしまいがちですが、

#### 学ぶ側の気持ちを置き去りにしていないか、それは本当に必要なことなのか、

時々、立ち止まって考える必要がありそうです。

コミュニケーションが成り立っているようにみえる場合でも、

実は自分の気持ちと違う表現をしてしまい、ストレスを貯めた結果が、

不適切な行動として現れることもあります。

でも、それはその子なりの「ことば」なんだと思いたいですね。

ことばでうまく伝えられない子どもたちと向き合う時、

#### 一方通行でない学びのやりとりを心がけたいなあ、と思うのでした。

(教育支援チーム)

## 【生活を豊かにするためのことばをみつけるには・・・】言語聴覚士 (ST)

人は人の中でことばを習得する素質をもって生まれてきています。

この仕組みはとてもよくできていて、  
英語を話す人の中で育てば英語を、日本語を話す人の中で育てば  
日本語を獲得できるようになります。

ところが、ことばの獲得に困難さを抱えている子どもたちは、  
この「獲得する機能がうまく作用していない」ために、  
ことばの習得やことばを使った活動に制約が生じてしまうのです。

ですが、この「人の中で学ぶ」ということは、  
どのような子どもたちにとっても共通する基本的な支援です。  
ですから、ことばの指導に不可欠なのは「人」ということになります。

ことばの指導として、まずやるべきことは、  
子どもを観察することです。これはかなり難しいことです。

特に子どもたちは、こちらがのんびり観察をしていると、  
危険なことをするかもしれないし、迷子になるかもしれないのです。  
ついつい、「あぶない」「こっちだよ」と声をかけてしまいます。

でも、これは子どもからすれば、必要なことばではありません。  
「あぶない」も「こっちだよ」も子どもの言いたかったことではないからです。

指導者としてやるべきことは、  
「子どもが心を止めたものは何か？」  
「何に気持ちが向いたのか？」  
「見たものは聞いたものは何か？」  
「これからやろうとする動作は何か？」  
を徹底的に、目を皿のようにして見つけることです。

こうして観察したことを、指導者はことばにしてみます。  
「パズル」「ひこうき」などなど  
決して、「指導者が言いたいことば」ではなく、  
「子どもがもしも話せたら言うであろうことば」を口にします。  
これがことばの指導の原則です。  
このように書いてはみましたが、  
言うは易く行うは難し。

そこで、便利なのが教材です。それはなぜでしょう？

教材を使うと、子どもの視線を読み取りやすくなるからです。  
「この子は今、何をしているのか」の読み取りが、  
少しだけわかりやすくなるのです。

子どもの心に気づくために、適切な教材の活用を考えていくことは、とても大事なことです。  
次号では「子どものことばの発達に合わせた教材」をいくつかご紹介します。お楽しみに！